

平成30年度 第42回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男1

男子 2回戦

会場 吉川市総合体育館コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名																		
北陸高等学校	26	<table border="1"> <tr> <td>9</td> <td>—</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>—</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td colspan="3">7mTC</td> </tr> </table>	9	—	7	17	—	12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7mTC			19	中部大学春日丘高等学校
9	—	7																				
17	—	12																				
—	—	—																				
—	—	—																				
—	—	—																				
7mTC																						

一回戦で開催地枠の越谷南を下した春日丘が、24年連続出場している北陸と対戦する。

シードである北陸はこの試合が本大会初戦であるが、硬さは感じられず、攻撃的なDF

からの速攻で得点する。一方春日丘は、左右に広く展開してサイドからの攻撃が目立つ。

そしてDFがつけられた所に、2番近藤碧音がシュートを放つ。一進一退の攻防が続く中、

5-5で両チーム得点が止まる。膠着を脱したのは北陸6番藤坂尚輝のクロスアタック。

パスカットからのワンマン速攻を確実に決める。これで流れを掴んだ北陸が2点のリー

ドで前半を終える。早く追いつきたい春日丘だが、点差はさらに広げられ、後半開始6

分弱で5点差になる。ここでタイムアウトをとると7番長谷川隆太が右サイドシュート

で反撃の口火を切る。3番川村豪も針の穴を通す様なステップシュートでゴールネット

を揺らす。しかし、北陸は15番谷口尊の豪快なミドルシュートで逆転を阻む。最終的

には第1シードの北陸が、その実力をいかんなく発揮し、26-19で勝利した。

31年 3月 25日

記載者氏名 高橋凜太郎

平成30年度 第42回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男2

男子 2回戦

会場 吉川市総合体育館コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名	
高知中央高等学校	<u>30</u>	[	15	—	14
			15	—	21
			—		
			—		
			—		
			7mTC		
		]	<u>35</u>	県立川口東高等学校	

男子2回戦、地元埼玉の川口東と高知中央の対戦。川口東5番太田のポストシュートで

先制。川口東は10番山口と5番太田のコンビネーションを中心に得点を重ねる。一方、高

知中央は、3番川久保のミドルシュートなどで得点を重ねる。川口東は全員で粘り強い

DF、高知中央は1番Sandaを中心に守る展開。どちらも譲らず前半終わって15-14で

高知中央の1点リード。

後半開始早々に高知中央5番西村が得点するも、その後すぐに川口東9番伊織のカット

インで取り返すなど前半同様一進一退の攻防が続く。川口東10番山口の活躍で後半8分

川口東が逆転に成功し、堪らず高知中央タイムアウト。互いに譲らず僅差で試合が進むも

川口東12番中村が7MTを阻止すると流れが一気に川口東へ。GKの好セーブから速攻へ

繋ぐ得意の展開になり、地元の声援を受けた川口東が35-30と突き離し勝利した。

H31年 3月 25日

記載者氏名 青木 庸平

平成30年度 第42回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男3

男子 2回戦

会場 吉川市総合体育館コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
大阪体育大学浪商高等学校	39	[ 23 - 12 16 - 9 - - 7mTC ]	21	県立総社高等学校

男子2回戦、大体大浪商と総社高校の試合。浪商からのスローオフ、5番松川の

サイドシュートから試合は始まった。序盤は両チームとも少々緊張していたが、浪商

優位で得点を重ね、前半7分過ぎに6-2となったところで、総社が1回目のタイム

アウトをとる。その後も浪商は、速攻、カットインなどで得点を重ね、早くも9分過ぎ

には総社2枚目のタイムアウト。総社は、15番佐田のカットイン、7番宇野のサイド

シュートなどで攻撃するも、浪商は7番泉本を中心に終始安定した攻撃で順調に得点

を重ね、23-12と大きくリードしたところで前半を折り返した。後半になっても、

浪商は手を緩めることなく、攻撃を重ね、それに対して総社も、バックス3枚で

応戦するも、点差は縮まることなく、浪商が安定した試合運びで勝利した。

31年 3月 25日

記載者氏名 駒井佳代子

平成30年度 第42回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男4

男子 2回戦

会場 吉川市総合体育館コート

岐阜市立岐阜商業高等学校	25	11	—	15	35	興南高等学校
		14	—	20		
		—				
		—				
		—				
		7mTC				

1回戦で法政二高を破り勢いに乗る岐阜商業と興南の対戦。いきなり、岐阜商業3番伊藤らの3連続得点で幕を開けた。しかし、伝統校である興南はしっかりと立て直し、すぐさま6連続得点をし、前半10分を過ぎたところで堪らず岐阜商業がタイムアウト。その後は、一進一退の競り合いが続いたが、興南8番平田の得点などにより、11-15と興南の4点リードで前半を終えた。後半開始早々、岐阜商業2番の退場により、興南に7mスローが与えられたが、岐阜商業1番今井がファインセーブ。流れに乗りたいた岐阜商業ではあるが、興南の粘り強い守りと、多彩な攻めにより、後半7分を過ぎたところで点差は7点となり、岐阜商業のタイムアウト。岐阜商業は8番武市のミドルシュートなどで攻めるが、興南1番西原に阻まれる展開が続くと、後半17分には点差は10点にまで広がった。一矢報いたい岐阜商業であったが、点差を縮めることができず、25-35で興南がそのまま逃げ切った。

31年 3月 25日

記載者氏名 稲村 一晃

平成30年度 第42回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男5

男子 2回戦

会場 吉川市総合体育館コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名																		
県立岩国工業高等学校	23	<table border="1"> <tr><td>11</td><td>—</td><td>12</td></tr> <tr><td>12</td><td>—</td><td>17</td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7mTC</td><td></td><td></td></tr> </table>	11	—	12	12	—	17	—			—			—			7mTC			29	高岡向陵高等学校
11	—	12																				
12	—	17																				
—																						
—																						
—																						
7mTC																						

男子 2 回戦。岩国工業対 1 回戦東大寺学園を破って勝ち上がった高岡向陵の一戦。先

制点は高岡向陵。2 番金岡のロングシュートで先制。高岡向陵は流れに乗り、11 番中島、

7 番七分の連続得点で、3-0 とリードする。その後、岩国工業が 11 番松本のシュートで

1 点を返してから、一進一退の攻防が続くが、高岡向陵キーパー塚本のファインセーブ

もあり、流れを渡さない。岩国工業は 8 番野々下、11 番松本の得点で応戦するが、序盤

の 3 点のリードがひびき、一度もリードすることなく、12-11 と接点ながら、高岡向陵

1 点リードで前半を折り返す。後半は高岡向陵 7 番七分の速攻による得点から始まる。

序盤 6 分はお互い 1 点ずつ取り合う攻防であったが、ついに岩国工業 11 番松本のサイド

シュートで同点に追いつく。だが、またもキーパー塚本の好セーブ、タイムアウトで流

れを断ち切るだけでなく、一気に流れを手繰り寄せ、5 点連取で 20-15 と 5 点リード。

その後は終始高岡向陵が優位に進め、29-23 で試合終了。高岡向陵が勝ち、3 回戦進出。

31 年 3 月 25 日

記載者氏名 米谷 祥平